

天竜川ゆめ会議20年のあゆみ

～ゆめと誇りをもって
天竜川を次世代に引き継ぐために～

特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議

目 次

1. はじめに	1
2. 市民団体の成立	3
3. 市民と行政との協働	6
■ 座談会	6
■ 天竜川シンポジウム	9
4. 天竜川の仲間たちとの交流	11
■ 天竜川流域の仲間たちのフォーラム	12
5. 天竜川の有害帰化植物対策	16
■ 天竜川流域有害帰化植物駆除 大作戦	17
6. 天竜川の景観回復	23
■ 天竜川の河畔を考える会	24
7. 天竜川の源流を楽しむ	28
■ 小渋ダム水源地ツアー	28
8. 天竜川を学ぶ	32
■ 天竜川試験	32
9. 天竜川上下流の連携	39
■ 遠州灘アカウミガメ放流ツアー	39
10. 天竜川のおもしろさを知る	49
■ 私の大好きな水辺の風景写真コンテスト	49
11. その他の活動	52
■ 忘れまじ三六災害	52
■ 天竜川ゆめ会議 設立10周年記念フォーラム	55
12. おわりに	58
参考文献	60
活動年表	61
役員名簿	62

1. はじめに

ずいぶん昔の出来事のように感じますが1997（平成9）年に河川法が改正されました。その前提として1995（平成7）年『今後の河川環境はいかにあるべきか』を検討する河川審議会が、東京大学名誉教授の高橋裕先生を委員長に開催されました。その答申では、「生物が多様な生育環境」、「健全な水環境の確保」、「河川と地域との再構築」が基本方針とされました。ここでの「河川環境のあり方」が1997（平成9）年の河川法改正の目玉となります。河川法改正第一条に河川法の目的として『河川環境の整備と保全』が加えられ、河川整備計画作成においては、学識経験者、首長の意見を加えると同時に、ようやく住民の意見を聞く仕組みが確立されました。つまり、治水と水資源の開発に特化した従来の河川事業に、河川環境、住民参加の道が開かれることになったのです。



メンバー募集チラシ

開始した天竜川ゆめ会議は、最終的に「天竜川みらい計画」をまとめ上げるまで12回の会議を開催し、2002（平成14）年3月まで1年半の時間を要しました。最終

このような背景から、建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所（現国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所）では、天竜川河川整備計画策定前段階での住民の意見聴取と合意形成を目的に、天竜川上流域の住民に「天竜川の夢・未来をつくりませんか？」と呼びかけました。当時、その呼びかけに答えて参加したメンバーで構成された団体が『天竜川ゆめ会議』でした。

行政側としては1年程度で住民の合意形成が実現し、住民の目指す天竜川の姿である「天竜川みらい計画」がまとまるものと考えていたのかもしれませんが。意に反して、2000（平成12）年9月に第1回目の会議を開

会議の開催と同時に、行政の呼びかけで任命された天竜川ゆめ会議の会員はその任を解かれました。その後、自然発生的に元会員の中から自分たちのまとめた「天竜川みらい計画」の実現に向けて行動を起こすべきだとの声上がり、有志によって2002（平成14）年7月に市民団体天竜川ゆめ会議が立ち上げられました。市民団体として活動する中で、さらに活発な活動をするために2006（平成18）年7月には特定非営利活動法人の認証を受け、熱い思いを持つ会員と活動を共にしてきました。そして、2026（令和8）年7月で特定非営利活動法人として活動を始めてから20年を迎えます。

自分たちの地域の宝物である“天竜川”を守り育むために活動している団体は天竜川水系には数多く存在しますが、本稿では天竜川上流部で活動する『天竜川ゆめ会議』の取組みの一部をご紹介します。



H16 座談会の様子

2. 市民団体の成立

前述のとおり、国土交通省、長野県の呼びかけに応募した天竜川に特別な思いのある住民で組織された『天竜川ゆめ会議』のメンバーは96名となりました。募集範囲は諏訪湖のある岡谷市から長野県境の天龍村まで当時の37市町村でした。2000（平成12）年9月に第1回目の会議がもたれてから、ほぼ2か月に1回のペースで“住民の望む天竜川の将来像を模索する会議”が開催されました。時には行政に対する批判も噴出しましたが、ゆめ会議会員たちは自分たちの思いを描く30年後の天竜川の姿を熱く語り、2002（平成14）年3月第12回目の会議で会員の総意として『天竜川みらい計画』最終案がまとめられました。この『天竜川みらい計画』は、天竜川上流域に全戸配布されました。

天竜川上流部と主な支川のみらい像をまとめた「天竜川みらい方針」

※天竜川みらい計画より抜粋

【流域住民の意識】

1. ゆめと愛と責任を持った人の暮らす天竜川
 - ・天竜川への思いや、ゆめをいつも持ち続ける
 - ・天竜川を愛する心を育む
 - ・責任ある行動で天竜川を守る
 - ・川の恵みに感謝し、後世に誇れる天竜川にする

【環境】

1. 水質
「泳げる川」・「飲める水」を目指し、四季を通して水清らかな天竜川
2. 水量
豊かな水をたたえる天竜川
3. 動植物
伊那谷らしい多様な動植物が共存する天竜川
4. 景観
豊かな自然を大切にし、伊那谷の特性を生かした景観を創出する天竜川

【利用】

1. 川の文化の継承と創造
歴史や文化を育み、地域の個性を生かす天竜川
2. 川の利用
水に触れ、安らぎ、心いやされる天竜川
3. 川と学習
川に遊び、川に学び、川に誇りを持つ心を育てる天竜川
4. 川の恵み
川の恵みを活用できる天竜川

【治水】

1. 川の怖さを知る・知らせる
厳しさを知り、洪水とつきあう知恵を生かす天竜川
2. 治水のあり方
 - ・流域全体で洪水に備える天竜川
 - ・環境・景観に配慮した天竜川
 - ・安全に土砂の流れる天竜川
 - ・知恵と工夫を生かして水害を防ぐ天竜川



まとめられた「天竜川みらい計画」



「天竜川みらい計画」

こうしてまとめられた『天竜川みらい計画』の完成をもって、「天竜川ゆめ会議」のメンバーは2002（平成14）年3月24日に解任となりました。

その後、当時の参加者の有志らによって『天竜川みらい計画』の実現のために、市民団体として組織を再編し活動を再開しようとする動きが高まり、2002（平成14）年7月7日設立総会が開催されました。このようにして『天竜川みらい計画』という自分たちの行動規範を実現するために「市民団体天竜川ゆめ会議」の活動がはじまりました。

【市民団体天竜川ゆめ会議設立趣意書】

古来より、天竜川とその流域住民とのかかわりは、人々の生活そのものでした。すなわち、天竜川のもたらす豊かな恵みは、地域の共有財産であるとともに、天竜川上流部である伊那谷の風土と文化の源泉でした。また、恵みをもたらす一方、自然の驚異とも化す天竜川を、人々は、治め、利用するための働きかけを営々と続けてきました。

そして今日、それぞれの時代の都合に応じて手を加えられた天竜川を見つめなおし、天竜川がもつ多様な価値を育んでゆくため、私達流域住民の思いや願いを“川づくり”に反映させることが大切になっています。

従来から行われてきた、治水・利水のみではなく、私達の総意である「天竜川みらい計画」にそって、河川水質の改善、生物の生息・生育環境の保全、親水性の向上、歴史文化の継承等、快適な河川環境の形成を目指し、本川と支川を含めた天竜川流域を新たに創造し、次世代にゆめと誇りをもって引き継ぐため、ここに「市民団体天竜川ゆめ会議」を設立します。

平成14年7月7日

3. 市民と行政との協働

『天竜川みらい計画』の実現のためにと大きな目標を掲げて市民団体を設立したものの、市民活動を経験した会員も無く、どのようなアプローチで活動を展開していったらいいのか暗中模索の状態でした。運営会議と称して月に1回の運営会議は行いますが、これといった一歩が踏み出せない状態が続きました。そんな時、会員から「私たちの総意である『天竜川みらい計画』は、行政の施策にどのように取り込まれているのだろう。」といった疑問が投げかけられました。それをきっかけに、「天竜川河川整備計画の策定前の住民の合意形成を目指した「天竜川ゆめ会議」だったのなら、河川整備計画策定まで『天竜川みらい計画』の見直し作業や検証をしよう」といった意見が自然発生的に噴出してきました。



大人に交じて意見を述べる子供たち

■ 座談会

早速、国土交通省や長野県の関係機関に呼びかけ、天竜川みらい計画の策定後の川づくりがどのように変わっていくのかを議論する座談会を開催することとなりました。タイトルは、「天竜川みらい計画のその後の座談会」。国土交通省や長野県の職員と市民団体天竜川ゆめ会議の会員で合同の実行委員会を編成し、会場や当日の運営までを手配しました。広く多くの住民に参加して頂くために、私たち市民団体からの呼びかけも行いましたが、行政側からも各地区に参加呼びかけが行われました。また、多くの住民が自分の考えを率直に発言できるようルールを作ることも忘れませんでした。



第3回 : H17. 2. 20



第4回 : H18. 2. 26



第4回 : H18. 2. 26



第7回 : H21. 4. 18



第8回 : H22. 4. 24



第8回 : H22. 4. 24

■ 天竜川シンポジウム

天竜川河川整備計画が策定されるまで続けられたこの企画は、現在では「天竜川シンポジウム」と名称を変えて継続されています。ある年の議論の中で、コメンテーターをお願いした当時長野県建設部河川課蓬田課長の「昨今の災害について感じることもある。行政側が危険を告知して避難を呼びかけても避難してくれない住民がいる。常日頃から自然の宝庫である“川”に行き、観察し、自分も自然の一部であることを感じ災害時の“異常な川”をいち早く察知して避難行動につなげてほしい。人が自然に生かされていることを感じ感謝するためにも“川”の存在は重要だ。」というご意見は心に沁みました。

天竜川シンポジウム 実施状況

年		月日	実施状況
2014	平成26年	10. 18	～豊かな自然を大切にし、地域の特性を生かした景観の創出～ 参加者 115 名 於：飯島町文化館
2017	平成29年	10. 14	～河川法改正から 20 年 今の天竜川で問題になりつつあることの検証～ 参加者 54 名 於：駒ヶ根駅前アルパ
2018	平成30年	10. 14	～住民に川隣れを解消し、“川に行くきつかなづくり”の創出～ 参加者 54 名 於：駒ヶ根駅前アルパ
2019	令和元年	10. 26	～私たちが望む天竜川の姿、目指したい天竜川の姿～ 参加者 80 名 於：宮田村市民会館
2020	令和2年	11. 28	～頻発する河川災害、天竜川の流域防災を考える～ 参加者 50 名 於：駒ヶ根駅前アルパ
2023	令和5年	12. 2	～頻発する河川災害、天竜川の流域防災を考える～ 参加者 50 名 於：駒ヶ根駅前アルパ
2024	令和6年	11. 30	～河川整備計画と流域防災を考える～ 参加者 45 名 於：駒ヶ根駅前アルパ
2025	令和7年	11. 15	“それぞれの立場での流域治水”～市街地・農地・山林・流域全体で進める防災～ 参加者 40 名 於：駒ヶ根市赤穂公民館



H26. 10. 18



H26. 10. 18



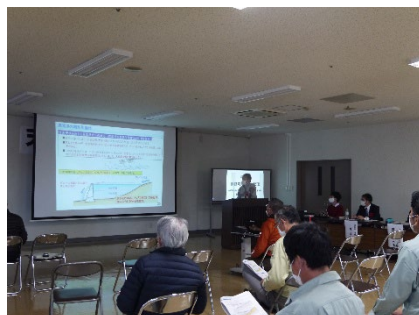
H30. 10. 14



H30. 10. 14

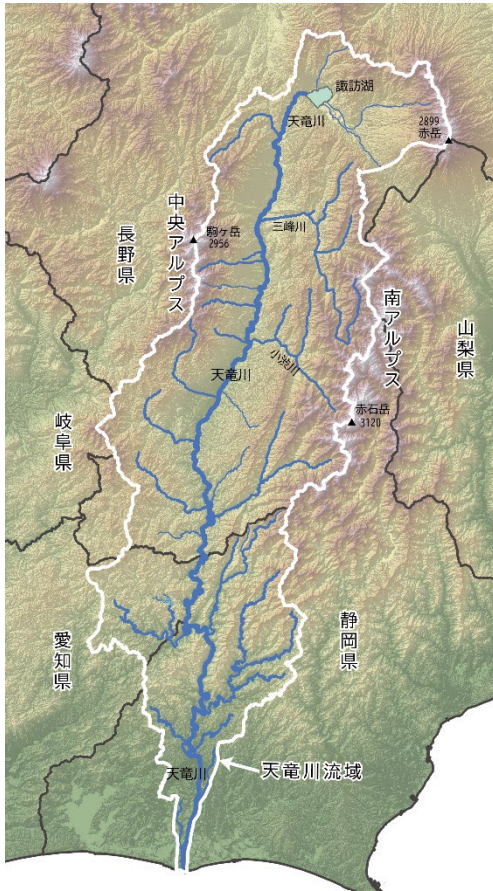


R2. 11. 28



R2. 11. 28

4. 天竜川の仲間たちとの交流



天竜川水系は、長野県茅野市の八ヶ岳連峰に位置する赤岳（標高2,899m）を源とし、諏訪盆地の水を一旦諏訪湖に集めて釜口水門から発し、途中、三峰川、小渋川等の支川を合わせながら、西に中央アルプス（木曾山脈）、東に南アルプス（赤石山脈）に挟まれた伊那谷を経て中流域の山岳地帯を流下し、さらに遠州平野を南流し、遠州灘に注ぐ、幹川流路延長213km、流域面積5,090 km²、主な流域内市町村10市12町15村、流域内人口約71万人（平成22年）の一級河川である。

（出典：天竜川水系の流域及び河川の概要 国土交通省水管理・国土保全局 R5.12）

天竜川流域には、川に係わる活動を続ける数多くの団体があります。それぞれの団体が天竜川や支川に思いを寄せながら活動を行っています。天竜川上流域ではそれまで、川に係わる活動をしている団体が情報交換をする場がほとんどありませんでした。すぐ近くで活動をしている二つの団体がそれぞれの活動内容を知らない、立派な活動をしているにもかかわらず一般の人に知られていない等の話を聞くこともありました。そこで、川に関係する様々な団体が一堂に集まり、自分たちの活動内容を発表することによってその存在を広く知ってもらう企画を

やってみようという声があがりました。また、同じような活動をしている団体同士が知り合うことにより、有意義な情報交換が出来るとともに、より効果的な活動を進められると考えました。いろいろな団体の活動を知ることにより、それぞれの団体に新たな交流が生まれ、新しい活動・連携に広がっていくことも期待できます。さらに、連携は上伊那・下伊那といった伊那谷地域の枠を超え、諏訪地域や下流の県外へも広がっていくことまで期待できます。上下流の流域連携も“ゆめ”ではありません。

■ 天竜川流域の仲間たちのフォーラム

「天竜川流域の仲間たちのフォーラム」は、天竜川上流域で川に係わる活動をしている市民団体、行政、学校等に参加を呼びかけ、前述のような内容で今後の活動の連携ができるような場を作ることを目的として開催することとなりました。

フォーラムに参加する団体には3分の発表時間を提供し、会の活動内容を紹介してもらいました。これにより参加者は、各団体の活動内容や活動範囲などを把握できました。

募集にあたっては川に関する市民団体、川に関する総合学習や研究をしている学校・クラス等で、わかる範囲の仲間に参加を呼びかけました。また、その仲間と交流のある仲間を紹介してもらい、出来るだけ多くの仲間がこのフォーラムの開催が伝わるように工夫しました。新聞投げ込みや公共機関等にチラシ・ポスターを置いて、一般住民の方々もご来場いただいて“川”で活動する団体への理解と協力をお願いしました。

NPO法人全国水環境交流会が主催して、全国各地で開催される「いり川・いり川づくりワークショップ」の天竜川上流部予選選考会としての位置づけにもなりました。ただし、本フォーラムでは各団体の活動に対して優劣や順位はつけず、参加して頂いた団体に、「いり川・いり川づくりワークショップ」という全国大会があることをお知らせすることとしました。

天竜川流域の仲間たちのフォーラム 実施状況

第3回 (H17年) 発表者一覧

番号	発表タイトル	所属団体	事務局所在市町村
1	湖浄連の活動について	諏訪湖浄化推進連絡協議会	下諏訪町
2	その後の住民協議会	丸福久保田組	駒ヶ根市
3	流域住民のみなさんと意見交換 天竜川シンポ	国土交通省 天竜川上流河川事務所	駒ヶ根市
4	カヌーを作って川で遊ぼう	伊那小学校5年智組その1	伊那市
5	天竜川へのゆめ	天竜川ゆめ会議	駒ヶ根市
6	川会議の活動	川会議	松川町
7	大平宿の水路を守ろう	天竜川ゆめ会議 (自然の流れを愛する会)	駒ヶ根市
8	養魚用水を利用したマイクロ水力発電設備フィールドテスト事業	ネクストエナジー・アンド・リソース株式会社	駒ヶ根市
9	美和ダム「地域に開かれたダム整備計画」の認定について	国土交通省 天竜川ダム統合管理事務所	中川村
10	川調べと川づくり、川に親しむ	上伊那農業高校緑地班	南箕輪村
11	名勝天竜峡の景観変遷・天竜川水位変化の考察	天竜峡景勝の保全復元を願う会	飯田市
12	ふるさとの川の刻む、思い出作りのお手伝い	大協建設株式会社	大鹿村
13	飯田市山本地区のゲンジボタル	NPO法人伊那谷環境再生研究会	飯田市
14	岡谷市でのアレチウリ駆除への取り組み	岡谷市	岡谷市
15	土石流のつめあとを歩いて	伊那小学校5年智組その2	伊那市
16	中田島砂丘を救え!	浜松自然の会	浜松市
17	産廃処分場建設計画から省みた行政と天竜川	はなのき友の会	飯田市
18	かわらんべの活動紹介	天竜川総合学習館かわらんべ	飯田市
19	谷川に蛍の棲める環境づくりについて	谷川に蛍の棲める環境づくり	飯田市
20	伝統漁法: やな漁	天竜リゾート (やな漁)	中川村
21	天竜川を愛する人をつなぐメールマガジン テネット	国土交通省 天竜川上流河川事務所(tenet)	駒ヶ根市



H19. 5. 19
第5回フォーラム
和田小学校の発表



H20. 6. 7 第6回フォーラム
特別企画
遠山川の歌
「遠山川はみんなの宝物」
発表



H21. 5. 16
第7回フォーラム

5. 天竜川の有害帰化植物対策

市民団体立ち上げ当時、それまでは天竜川の河原ではあまり見かけず気にならなかった“帰化植物”が注目されるようになっていました。帰化植物とは、本来我が国には生育していなかった植物で、人によって意識的又は無意識のうちに持ち込まれ、野生の状態で生育するようになったものと定義されます。さらに、この帰化植物は大昔にイネと共に南方から入って来たもの（タウコギやカヤツリグサなど）、稲作以降中国大陸を経由して入った作物に伴って侵入したもの（ミミナグサやナズナなど）、明治以後の貿易に伴い輸入貨物に紛れ込んで入ったもの（ヒメムカシヨモギやセイタカアワダチソウなど）に大別されます。

天竜川流域に侵入してきた帰化植物への対応のあり方については、天竜川ゆめ会議の内部でも『天竜川みらい計画』策定段階から多くの議論が交わされ、その当時から会員の皆さんの帰化植物に対する意識の高さを伺い知ることができました。帰化植物すべてを否定すべきなのか、有害であるから駆除すべきなのか、何をもって有害かそうでないかを決めるのか、それを判断する基準はあるのか、また誰が判断基準を決めるのか、日本国内に毎日のように輸入される園芸品種の植物達の扱いはどうすべきなのかなど、議論はつきませんでした。

結局、私どもの行動規範である『天竜川みらい計画』策定の段階では結論を見出すことはせずに、全 14 項目からなる天竜川のみらい計画の大項目中、環境の項目 2 件を、以下の通りにまとめました。

【環境】

3. 動植物

伊那谷らしい多様な動植物が共存する天竜川

4. 景観

豊かな自然を大切にし、伊那谷の特性を生かした景観を創出する天竜川

その後、“侵略植物”“有害植物”などという言葉と共に帰化植物の存在はクローズアップされ、市民団体天竜川ゆめ会議設立の翌年（2003(平成15)年度）に国土交通省天竜川上流河川事務所によってまとめられた天竜川流域の帰化植物に対する住民アンケートの結果から以下のような民意が抽出されました。

- ・帰化植物の認知度が低かったこと。また、流域住民が帰化植物に関する情報を欲している。
- ・帰化植物の駆除を含めた天竜川の河川環境を復元する施策に概ね賛同する。
- ・帰化植物の駆除作業には回答者の半数の方が参加しても良いと回答し、その頻度は年2回で1回あたり2時間程度なら参加してもという回答者が最も多く、ボランティア意識の高さがうかがえた。

■ 天竜川流域有害帰化植物駆除 大作戦

これを受けて市民団体天竜川ゆめ会議では、帰化植物の議論が流域全体に広がりを見せ、流域住民が自ら私達の天竜川流域のために行動を起こす機会として2004（平成16）年夏「天竜川流域有害帰化植物駆除 大作戦」を企画しました。当時は天竜川流域に繁殖を拡大し始めた「アレチウリ」の他に「オオキンケイギク」、「フサフジウツギ」等も対象とするのかについて議論はありましたが、特に有害帰化植物の象徴として近年天竜川流域に猛威を振るっている「アレチウリ」に限定して駆除することにしました。

【想定した駆除方法】

手で根から抜き取る	効果は確実。他の動植物への影響は少ない。発芽期が6月～9月と長い場合何回も実施する必要がある。
草刈り機により刈取り	刈取りによる効果は高い。ただし、他の植物も刈ってしまう。根を抜かない限りツルの成長は続く。
除草剤を用いる	葉に散布することにより根まで枯死させることは可能で効果的な駆除が可能。ただし、環境への十分な配慮が必要。

2006（平成18）年にアレチウリが特定外来種に指定されたことから行政も積極的に協力して頂けるようになり、現在では「諏訪湖周辺」、「岡谷釜口水門」、「辰野地区」、「南箕輪地区」、「伊那地区」、「宮田地区」、「駒ヶ根地区」、「中川地区」、「松川高森地区」、「飯田地区」の会場で毎年駆除活動が展開され、それ以外の地区



親子でアレチウリの駆除活動をする参加者



釜口水門周辺で生徒会が主体となり駆除活動

でも企業や有志がアレチウリの駆除を行うようになり市民団体の活動が流域全体に広がりを見せています。

また、天竜川のはじまりである諏訪湖釜口水門で2006（平成18）年に開催したアレチウリ駆除に、近傍の岡谷市立岡谷南部中学校の生徒会役員が参加したことがきっかけで、翌年から地区協議会である“岡谷南部中学校を守る会”と“岡谷南部中生徒会”から、「自主的に諏訪湖周辺の地区に会場を設営して駆除作業を行いたいのので指導をお願いしたい」と申し出があり、アレチウリ駆除講座を開催することで、「ゆめ会議のアレチウリ駆除は手抜き、その場に放置」の合

言葉の普及に繋がりました。

この取り組みは雑誌「河川」2014-7月号（公益社団法人 日本河川協会発行）に、地域・市民との連携・協働活動として詳細を報告しました。

天竜川流域有害帰化植物駆除 大作戦 実施状況 (1/2)

年		月	実施状況
2004	平成16年	8月	於：辰野町、駒ヶ根市、高森町、飯田市
2005	平成17年	7月	参加総数200名 於：岡谷市、辰野町、駒ヶ根市、高森町、飯田市
2006	平成18年	7月	参加総数300名 於：岡谷市、辰野町、宮田村、駒ヶ根市、中川村、高森町、飯田市
2007	平成19年	7月	参加総数270名 於：岡谷市、辰野町、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、高森町、飯田市
2008	平成20年	7月	参加総数170名 於：岡谷市、辰野町、宮田村、駒ヶ根市、中川村、高森町、飯田市
2009	平成21年	7月	参加総数500名 於：岡谷市、辰野町、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、高森町、飯田市
2010	平成22年	7月	参加総数800名 於：岡谷市、辰野町、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、高森町、飯田市
2011	平成23年	7月	参加総数800名 於：岡谷市、辰野町、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、高森町、飯田市
2012	平成24年	7月	参加総数800名 於：岡谷市、辰野町、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、高森町、飯田市
2013	平成25年	7月	参加総数800名 於：岡谷市、辰野町、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、高森町、飯田市
2014	平成26年	7月	参加総数400名 於：岡谷市、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、飯田市
2015	平成27年	7月	参加総数400名 於：岡谷市、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、飯田市
2016	平成28年	7月	参加総数400名 於：岡谷市、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、飯田市
2017	平成29年	7月	参加総数400名 於：岡谷市、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、飯田市
2018	平成30年	7月	参加総数400名 於：岡谷市2回、南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村
2019	令和元年	7月	参加者：400名超 於：岡谷市3回、南箕輪村、駒ヶ根市、中川村5会場、飯田市
2020	令和2年	7月	参加者40名 於：駒ヶ根市

天竜川流域有害帰化植物駆除 大作戦 実施状況 (2/2)

年		月	実施状況
2021	令和3年	7月	参加者 60名 於：駒ヶ根市
2022	令和4年	7月	参加者 50名 於：駒ヶ根市
2023	令和5年	7月	参加者 60名 於：駒ヶ根市
2024	令和6年	7月	参加総数 400名 於：南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、飯田市
2025	令和7年	7月	参加総数 400名 於：南箕輪村、宮田村、駒ヶ根市、中川村、飯田市

※参加総数は概数



初期の「根の太さコンテスト」
(辰野会場)



「将来の援軍養成」
地元中学生の参加 (辰野会場)



人海戦術が有効 (駒ヶ根会場)



親子で参加 (駒ヶ根会場)



葛やカナムグラなども繁茂する箇所
でのアレチウリ駆除は容易ではない
(高森会場)



アレチウリの花と実



(宮田会場)



(駒ヶ根会場)

6. 天竜川の景観回復

前述のアレチウリ駆除作業は毎年7月の各週土日に天竜川上流域各地で実施される恒例行事として定着しました。岡谷市から飯田市までの区間の各会場で真夏の早朝、現在その繁殖力で川から山まで猛威を振るい大きな環境問題になっているアレチウリの駆除を、各地区の皆さん最大約800名のボランティアにより実施しています。

有害帰化植物を駆除して、在来植物を保護していくべきではないかといった議論は、私たちが実現を目指す『天竜川みらい計画』策定の段階からありました。アレチウリはどこから見ても有害であることから、即行動に移すことができました。同様に天竜川河畔林の扱いも『天竜川みらい計画』策定段階から議論が繰り返され、みらい方針の中では以下のようにまとめられました。

【環境】

3. 動植物

- ・伊那谷らしい多様な動植物が共存する天竜川
→在来の動植物が、大切に守られている川

4. 景観

- ・豊かな自然を大切にし、伊那谷の特性を生かした景観を創出する天竜川
→誰でも行きたくなるような川

【治水】

2. 治水のあり方

- ・環境・景観に配慮した天竜川
→河道内の立木が適切に伐採除去された川

■ 天竜川の河畔を考える会

「天竜川の河畔を考える会」は、中州にハリエンジュが繁殖し、わずかに幅 200 m しかない天竜川の対岸が見えなくなっている駒ヶ根地区の皆さんに問題提起をし、地域としてこれからどのような行動を起こすべきか、自分たちの問題として議論を深めようと考えて開催したものです。防災という視点で考えれば河川管理上、河積の減少による流下能力の低下や河道内の樹木が洪水に流され、橋にかかって災害を助長するなどの可能性から、河道内樹木は伐採したいのは理解できます。しかし、万が一河道内の樹木により川の恵みを受けている方がいるのであれば『天竜川みらい計画』みらい方針の中、以下の方針が達成されないことになってしまいます。

【利 用】

4. 川の恵み

- ・川の恵みを活用できる天竜川
→地域の生業を支える天竜川

河畔林の柳の木でカブトムシを取って川の恵みを感じている方もいるかもしれません。魚を取りに来たときに河畔林の日陰で休む方もいるかもしれない。森が減ってきて住処を失った鳥達が営巣するのも河畔林かもしれません。香りがいい事から公園の植栽に使われ、治山工事で有効な効果を果たしてきたハリエンジュ。その花の時期、ハリエンジュで蜜を取る養蜂家もいます。ハリエンジュはマメ科なので、空気中の有機窒素を固定化し、空気浄化になっているという報告もあります。道路整備が進み、自動車が頻りに往來する昨今、小動物たちが安全に移動できるルートは河川内の河畔林とも言われています。



天竜川の河畔を考える会の議論の風景

天竜川上流河川事務所では堤防の除草は定期的を実施しています。しかし、河川内は実施していませんでした。2回にわたる「天竜川の河畔を考える会」の中で、“地域住民”の川に対する思いと、今後の行動の方向性が抽出できたと思われます。住民の総意として、「天竜川



早朝から集合した「川のきこり達」

の原風景とは現在そこに生活する人々が持っている白い礫河原が天竜川のイメージであり、現状の河畔林はそのイメージとかけ離れている。」という集約がなされ、さらに地域の河川環境はその地域が主体的に整備することも提案され、結果行政と地域住民の協働という形で「河道内に繁茂したハリエンジュを市民団体と地域が連携して伐採する」という行動に移される事となりました。

ボランティアとして参加して頂いた皆さんには環境保全活動に対して、開催地駒ヶ根市地域通貨である「こまちゃんポイント」を付加するなどの取組みも行いました。また、伐採したハリエンジュはストーブの薪として参加者がすべて持ち帰ることとしたために河



伐採木の軽トラックによる搬出

道内は見事に清掃され、望んでいた河川景観を取り戻すこともできました。

帰化植物駆除・在来植物保護について、天竜川の景観について、河畔林の役割、防災など、いつも自分達が目にしてきた“天竜川の風景”を地元住民が中心になって真剣に議論し、行動を起こすことは我国の河川管理の方法、あるいは地域づくりのあり方にも一石を投じるようになったと自負しています。

この企画を数年続ける中で、国土交通省天竜川上流河川事務所では「自然再生事業」として工事発注をして河道内樹木の撤去を進めて頂けるようになり、企画は終了しました。地域住民と市民団体の活動が行政を巻き込んで地域の河川環境の回復のきっかけになった事例だと考えます。

この取り組みは雑誌「河川」2013-9月号（公益社団法人 日本河川協会発行）に、戦略的河川維持管理として詳細を報告しました。

河川敷内を美しくするボランティア募集

平成18年2月10日
 駒ヶ根市天竜川河川愛護連絡会
 市民団体 天竜川ゆめ会議

天竜川河川敷内の（下平地籍内）雑木が有り、皆さんにボランティアに出て頂き伐採を行いたいと思っておりますのでボランティアを募集いたします。
 希望者には伐採本を差し上げます。

日時と作業内容

日時 3月5日（雨天の場合は3月12日）
 持ち物 ヘルメット、ノコギリ、ナタ、カマ、チェーンソー、手袋、昼食、飲み物
 場所 西駒郷 北東側河川敷（太田切川合流点）
 集合時間 AM 9:00 現地集合（PM 4:00 頃迄）

- 柳、アカシヤ等、木の伐採
- 伐採木の搬出（薪の必要な方）
- 必要外の枝葉を燃やします



お問い合わせ 市民団体 天竜川ゆめ会議
 TEL 0265-83-7744
 FAX 0265-83-7745
 福沢・倉田

ボランティアに出られる方は下記へ御記入のうえFAXにてお申し込み下さい。（締切 2月末日）

氏名	住所	電話番号	木の必要の有無

申し込みのない場合は、保険加入等のためお断りすることがあります。
 同様に、申し込みのない方は、伐採木の持ち出しも出来ません。

ボランティア募集のチラシ

河川内樹木伐採 実施状況

年	月	実施状況
2006	平成 18 年	3 月 参加者 49 名 於：駒ヶ根市下平
2007	平成 19 年	2 月 参加者 98 名 於：駒ヶ根市下平
2008	平成 20 年	2 月 参加者 80 名 於：駒ヶ根市下平
2009	平成 21 年	2 月 参加者 156 名 於：駒ヶ根市下平
2010	平成 22 年	2 月 参加者 120 名 於：駒ヶ根市下平
2011	平成 23 年	2 月 参加者 137 名 於：駒ヶ根市下平
2012	平成 24 年	2 月 参加者 120 名 於：駒ヶ根市下平
2013	平成 25 年	2 月 参加者 75 名 於：駒ヶ根市下平
2014	平成 26 年	2 月 参加者 169 名 於：駒ヶ根市下平
2015	平成 27 年	2 月 参加者 120 名 於：駒ヶ根市下平



H19. 2. 4
伐採作業の様子



7. 天竜川の源流を楽しむ

■ 小渋ダム水源地ツアー

2006（平成18）年、長野県から特定非営利活動法人の認証を頂き、『市民団体天竜川ゆめ会議』から『特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議』として登記を済ませて行政との関係はさらに良好になりました。思い返せば、この『小渋ダム水源地ツアー』が法人格を取得して一番最初の行政との協働による企画でした。私たちは特定非営利活動法人として、より一層行政との連携を深め、地域に根ざした活動を通して“川の楽しさ”また“川の怖さ”をアピールしてきました。

【利用】

2. 川の利用

水に触れ、安らぎ、心いやされる天竜川

3. 川と学習

川に遊び、川に学び、川に誇りを持つ心を育てる天竜川

天竜川左支川小渋川にある小渋ダムを見学しその上流部源流を楽しむ企画を、国土交通省天竜川ダム統合管理事務所、大鹿村役場、伊那谷自然友の会、飯田エコツーリズム研究会の皆様との協働で開催しました。華美に走らず手作り感覚で実施し、参加者が「学び」と「遊び」が内包する発見や疑問に対して素直な驚きや感動が持てることを主眼にツアーを実施しました。ダムの大切さを知り、治水の最前線で働く人々に接し、さらにダム水源地域の大自然のすばらしさに感動します。そして、市民と行政が、胸襟を開いて互いに信頼感を構築する礎のひとつになっているのではないかと実感しています。

【小渋ダム水源地ツアー 開催状況】

- ・第1回：2004（平成16）年 8月 参加者約 25人
- ・第2回：2005（平成17）年 8月 参加者約 30人
- ・第3回：2006（平成18）年 9月 参加者約 40人
- ・第4回：2007（平成19）年 9月 参加者約 15人

第3回小渋ダム水源地ツアー実施要領

～小渋川の源流を訪ねて～

目 的

天竜川に注ぐ支川は、それぞれに顔が違い趣がある。下伊那に住まう人々にとって特に自然の驚異であり、自然の宝庫とされてきた小渋川。私達の大切な宝物であるこのすばらしい小渋川を皆で歩き、皆で語り、皆で感じましょう。

開催日時

平成18年9月3日(日) 午前6:00～午後6:00頃

(雨天が懸念される場合は9月2日に羽場崎実行委員長の判断で延期する)

実施内容

源流ツアー ～小渋川の源流を訪ねて～

6:00 飯田班出発

6:40 松川班・大鹿班・中川班出発

7:00 小渋ダム駐車場集合・マイクロに乗換え

8:00 湯折れ車止め到着・装備確認

9:00 板屋沢出会い到着・源流散策

○設営班 流木で炊事開始(トン汁用意)

●小渋沢歩き 本流遡行・ブナの森古道・昼食

12:30 板屋沢出会い出発

14:00 小渋ダム到着

●ダム内部探検隊

15:30 小渋ダム出発・解散

※本年は、ダム湖内に流木が多いためダム巡視体験は行なわない。

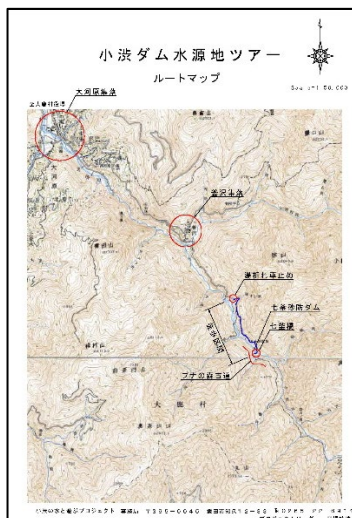
平成17年度
小渋ダム水源地ツアー
～小渋川の源流を訪ねて～
ツアー参加者募集

日時 **8月28日** (雨天決行)

場所 長野県千代田郡松川町大栗村
【小渋川水源地】

参加費 **無料** (昼食は用意します)

小渋ダム水源地ツアー実行委員会
連絡先 飯田班担当 三上 アリス先生(TEL) 0265-22-5966



小渋ダム水源地ツアー 募集チラシとルートマップ



渡河しながら上流を目指す参加者

H17. 8. 28



集合場所の小渋ダムで記念撮影

H18. 9. 3



H17. 8. 28



H17. 8. 28



H17. 8. 28



H17. 8. 28



H17. 8. 28



H17. 8. 28

さらに、2007（平成19）年からは大鹿村役場の協力によりツアーの中に『大鹿村の観光案内』の時間を設けました。これは、小渋ダム水源地域ビジョンの基本理念である“南アルプスと天竜川に抱かれた小渋川水源地域の3町村のつながりを強め、協働して地域活性化に取り組んでいます。”を実現するために、まず源流地域である大鹿村を参加者に紹介し、水源地域である大鹿村に多くの人々が訪れ、小渋川源流部のすばらしさを知ってもらう発想から生まれました。小渋川の砂防工事のために現在は中止していますがこのような企画を通して、市民と行政の相互理解がさらに深まることが期待されます。

8. 天竜川を学ぶ

■ 天竜川試験

古来より、天竜川とその流域住民とのかかわりは、流域住民の生活そのものでした。すなわち、天竜川のもたらす豊かな恵みは、地域の共有財産であるとともに、伊那谷の風土と文化の源泉でした。また、恵みをもたらす一方、自然の脅威とも化する天竜川を、人々は、治め、利用するための働きかけを営々と続けてきました。

そして今日、それぞれの時代の都合に応じて手を加えられた天竜川を見つめなおし、天竜川がもつ多様な価値を育てゆくため、私達流域住民の思いや願いを“川づくり”に反映させることが大切になってきています。自信を持って自分の意見を発言するためには、天竜川に興味を持ち、天竜川をよく観察し、河川についての知識を蓄える必要があると考えました。そこで、『天竜川試験』はそのような観点のもとに、子どもから大人までが大切な宝物である「天竜川」について楽しく学ぶきっかけとなることを目指したものです。



難問に挑戦する参加者

また、本試験を通じてふるさとの文化や歴史、さらにはそこに生息する生き物や植物の知識を学ぶことにより豊かな心を育み、21世紀の“川づくり”や“河川環境整備”に積極的に取り組む人材育成に大きく寄与すると期待して実施しました。現在では、その運営の難しさと資金面から『天竜川試験』は休止していますが、毎年開催する『諏訪湖クリーン祭』の1つのブースとして「お試し試験」を実施しています。

訪湖クリーン祭』の1つのブースとして「お試し試験」を実施しています。



てんりゅうがわしけん
天竜川試験



天竜川と、ともだちになろう

第1回

天竜川の知識認定試験

試験日:平成19年8月19日(日)

- 主催 特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議
- 後援 四七交通会 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所、
天竜川ダム統合管理事務所、三ヶ川総合開発工事事務所、
長野県土木部、岡谷市、諏訪市、伊那市、駒ケ根市、
飯田市、信濃放送、信濃毎日新聞社、長野日報社、
南信州新聞社

- 試験日時
平成19年8月19日(日)午後1時~午後3時
(試験時間60分)
- 申込受付期間
平成19年7月10日~平成19年7月31日(当日消印有効)
- 受験資格
資格は問いませんが、同級は中学生以上を対象とした出題となります。
- 受験料 ￥2,000円
- 試験地 伊那市・飯田市
- お問い合わせ先
〒399-4117
長野県駒ヶ根市赤穂14616-67 信濃地計画自
特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議 事務局
「天竜川の知識認定試験」認定委員会
TEL 0265-83-7741 FAX 0265-83-7745
E_mail: yume@tenryugawa.org

※電話によるお問い合わせは9時より17時までにお願います。
土日祝日及び夜間の受付は行っておりません。

天竜川試験の案内チラシ

【天竜川試験 開催状況】

- ・第1回:2007(平成19)年8月 受験者33人
- ・第2回:2008(平成20)年10月 受験者12人
- ・第3回:2009(平成21)年10月 受験者19人

【試験内容】

- a) 試験方法 4者択一問題
- b) 出題数 50問（試験開始より30分後から退出可）
- c) 出題区分 以下の区分ごとの出題と、区分をまたがった複合的な出題を行う。
 - ①治水に関する問題 災害・防災などを10問出題
 - ②利水に関する問題 水を利用するための問題を10問出題
 - ③環境に関する問題 植物・動物を含めた環境の問題を10問出題
 - ④文化・歴史に関する問題 伊那谷の歴史・文化・風土からを10問出題
 - ⑤川とのかかわり 広く全国の人々がどのように川に関わっているかの問題を10問出題

【認定証】

天竜川試験の総合正解数で「級」を授与する。

“あなたはNPO法人天竜川ゆめ会議が主催した「第1回天竜川試験」において〇級の成績に達したことを証し、『天竜川〇級』と称することを認める。”

〈認定基準〉

1級	総合正解数が	48～50問
2級	総合正解数が	45～47問
3級	総合正解数が	41～44問
4級	総合正解数が	36～40問
5級	総合正解数が	21～35問
6級	総合正解数が	0～20問

合格者には認定証を郵送にて授与する。受験番号及び認定番号は00〈年度〉0〈受験地〉0000〈受付番号〉に従う。

【出題参考書】

天竜川サイエンス（天竜川サイエンス編集委員会編）より7割を出題。その他は、上伊那川たんけんブック・下伊那川たんけんブック（天竜川上流河川事務所 たんけんブック編集委員会編）、天竜川カルトクイズ（天竜川ゆめ会議カルトクイズ実行委員会編）より出題。

【例題】

天竜川上流部の伊那谷では昔から、川の中の虫を「ザザムシ」といって食べていました。今もおみやげ店等で売られていますが、この「ザザムシ」は何という虫の幼虫でしょう。

- ①モンカワゲラ ②ヒラタカゲロウ ③ヒゲナガカワトビケラ ④ダビトサナエ

【回答】 正解 ③ヒゲナガカワトビケラ

ヒゲナガカワトビケラはトビケラ目のヒゲナガカワトビケラ科に属しています。トビケラ目は世界各地に1万種類以上が生息し、日本では約320種類が記録されていますが、幼虫と成虫が確認されている種類は80種類ほどしかなく、研究が進めば倍以上の種類が確認されると考えられています。ほとんどのトビケラの仲間は細かい砂礫や枯れ枝などを糸でくっつけ円筒状の巣を作りますが、大きなヒゲナガカワトビケラの幼虫は、大きな石に小石を固めて巣を作ります。そこから動くことはできないので、自分がはきだした糸であみをはり、



ザザムシの幼虫（上）、と成虫（下）

り、流れてくるエサを引っかけてつかまえています。イサゴムシ・ザザムシなどともいわれ、伊那谷では、古くから佃煮にして食べています。

出典 天竜川サイエンス P. 81

下伊那川たんけんブック P. 51 より

【問題 1】

これからの天竜川をどのように整備すればよいか、天竜川はどのような姿であるべきなのかを話し合っ
てつくられた、NPO法人天竜川ゆめ会議がその実現を目標としている“天竜川の憲法”
というべき計画を何と称してでしょうか。

- ①天竜川整備計画 ②天竜川みらい計画 ③河川整備計画 ④天竜川ゆめ計画

【問題 2】

天竜川は、急峻な地形と脆弱な地質構造とがあいまって過去なども土砂災害に見舞われていま
す。現在の伊那谷は、天竜川の河床の上昇速度より伊那谷の両側に位置する中央アルプスと南ア
ルプスが隆起し続ける速度が大きいことにより形成されました。

さて、その隆起する上昇速度は一年間でおよそどのくらいでしょうか。

- ① 2 mm/年 ② 2 cm/年 ③ 20 cm/年 ④ 2 m/年

【問題 3】

伊那谷では昔から、水の中の虫を「ザザムシ」といって食べていました。今もおみやげ店等で売ら
れていますが、この「ザザムシ」は何という虫の幼虫でしょう。

- ①モンカワゲラ ②ヒラタカゲロウ ③ヒゲナガカワトビゲラ ④ダビトサナエ

【問題 4】

一級水系とは、国土交通大臣が国土保全上または国民経済上特に重要な水系として指定した水系
のことで、全国では 109 の一級水系が指定されています。さて、天竜川水系が一級水系に指定された
のはいつでしょう。

- ① 昭和 26 年 ② 昭和 45 年 ③ 昭和 54 年 ④ 平成 2 年

【問題 5】

今日現在で釜口水門から河口までの天竜川本川に接している市町村はいくつあるでしょう。

- ① 20 市町村 ② 21 市町村 ③ 25 市町村 ④ 38 市町村

【問題1】

これからの天竜川をどのように整備すればよいのか、天竜川はどのような姿であるべきなのかを話し合ってつくれた、NPO法人天竜川ゆめ会議がその実現を目標としている“天竜川の憲法”というべき計画を何というのでしょうか。

- ①天竜川整備計画 ②天竜川みらい計画 ③河川整備計画 ④天竜川ゆめ計画

正解 ②天竜川みらい計画

「天竜川みらい計画」は、これからの天竜川をどのように整備すればよいのか、天竜川はどのように利用できるのかなどを話し合ってつくれました。簡単に言うと、未来の天竜川の姿を表した「憲法」のようなものです。内容は、住民の意識、環境、利用、治水のそれぞれの項目に天竜川のみらい方針を設定しています。冊子は、天竜川上流河川事務所か天竜川ゆめ会議の事務局にあります。

出典 下伊那川たんけんブック P.61より



【問題2】

天竜川は、急峻な地形と脆弱な地質構造とがあいまって過去なんでも土砂災害に見舞われています。現在の伊那谷は、天竜川の河床の上昇速度より伊那谷の両側に位置する中央アルプスと南アルプスが隆起し続ける速度が大きいことにより形成されました。

さて、その隆起する上昇速度は一年間でおよそどのくらいでしょうか。

- ①2mm/年 ②2cm/年 ③20cm/年 ④2m/年

正解 ①2mm/年

伊那谷は3000m級の山脈を両側にもし、天竜川沿いに作られた盆地で、中央・南アルプスに挟まれた形で、その延長は南北に80kmにもなります。一般に谷は川の浸食の力で作られると考えられますが、伊那谷の場合、地殻の変動（中央・南アルプスの隆起）によって形成されました。

天竜川は、大洪水時には支流の山地部から多量の土砂が生産され、下流に流れ下り、天竜川本川内に堆積することになり、洪水のたびに天竜川の河床が上がることとなります。中央・南アルプスに挟まれた形の今の形になるには、この両アルプスの隆起速度の方が大きいという条件を満たす必要があります。中央アルプスの旧河床砂礫層と現在の河床との標高差100m（5万年間）から上昇量を求めると2mm/年となります。

大きいとされるヒマラヤ山脈の（5mm/年）には及ばないものの、日本では上昇量の多い部類に属しています。

出典 天竜川サイエンスP.22より



天竜川試験の様子



9. 天竜川上下流の連携

■ 遠州灘アカウミガメ放流ツアー

長野県は「海無し県」ですが、天竜川、木曾川、千曲川などの河川によって“海”とつながっています。鉄道や高速道路網が整備され、川を使った通運は無くなりましたが、かつては川による上下流の交流は盛んでした。

天竜川上流の子供たちが天竜川の河口を見学し、天竜川河口で今何が起きているのかを見聞する「遠州灘アカウミガメ放流ツアー」を、上流部の天竜川上流河川事務所、河口部の浜松河川国道事務所、静岡県磐田市の姉妹都市である長野県伊那市・駒ヶ根市・喬木村のご協力を頂きながら毎年開催しています。



アカウミガメの赤ちゃんの放流の様子

メの生態や砂丘で何が起きているかについて説明を受けて、天竜川河口や海岸にどのような問題があるかを勉強します。その後、アカウミガメの赤ちゃんの放流を行って帰路につきます。

天竜川上流部から貸し切りバスに乗車した参加者は磐田市の会場で、国土交通省浜松河川国道職員や磐田市職員の方々から天竜川水系の地形の特徴や土砂運搬について説明を受けます。続いて浜松市中田島砂丘でウミガメ保護活動を行っているNPOの皆さんからウミガ

アカウミガメ放流ツアー 実施状況

西暦	和暦	月	参加人数	西暦	和暦	月	参加人数
2005	平成 17 年	9 月	45 名	2015	平成 27 年	9 月	45 名
2006	平成 18 年	9 月	70 名	2016	平成 28 年	9 月	35 名
2007	平成 19 年	9 月	92 名	2017	平成 29 年	9 月	32 名
2008	平成 20 年	9 月	68 名	2018	平成 30 年	9 月	134 名
2009	平成 21 年	9 月	80 名	2019	令和元年	9 月	※
2010	平成 22 年	9 月	30 名	2022	令和 4 年	9 月	24 名
2011	平成 23 年	9 月	40 名	2023	令和 5 年	9 月	30 名
2012	平成 24 年	9 月	60 名	2024	令和 6 年	9 月	42 名
2013	平成 25 年	9 月	40 名	2025	令和 7 年	9 月	34 名
2014	平成 26 年	9 月	65 名				

※2019（令和元）年は「海と日本プロジェクト「天竜川調査隊」実施 アカウミガメ放流・海の備え学習」を実施

【アカウミガメ放流ツアーの概要】

【目的】

危険を顧みず、一心に海を目指す子ガメ。波に何度も何度も押し戻されながらも、懸命に沖を目指して泳ごうとする子ガメを見ていると、いったい何がそうさせているのだろうと考えさせられます。彼らは、生まれた時から生き抜くためには懸命でなければならぬと知っているのです。懸命であるがゆえに、その光景は私たちに感動を与えるのです。

下流部の遠州灘で今、何が起きているのか。産卵に来るアカウミガメのお母さん達の危険、さらに産卵場所になっている砂浜の海岸侵食。小さな動物達の営みに危険を与えてしまった人間の生活、ついには自分たち自身の生活圏を脅かすこととなった海岸侵食の事実を見聞し、下流に暮らし活動を続けている人々との交流を通して、天竜川上流部に住まうものの態度と行動を模索することを目的とします。

【開催日時】

平成18年9月18日（月）
午前8:30～午後9:00頃

【日程】

- 8:30 岡谷 IC 出発
- 8:30 伊那小 乗車
- 8:50 高遠小 伊那 IC 乗車
- 9:00 高遠小 小黒川PA 乗車
- 9:15 駒ヶ岳SA 乗車
- 9:25 松川 IC 乗車

自己紹介と本日の予定説明

(1号車：福澤、2号車：北澤先生)

- 10:30 恵那SAで休憩。1号車、2号車合流
車内でカルトクイズ実施
- 12:00 浜松到着 昼食（各自お弁当を用意してください）
- 13:00 中田島砂丘到着
- 13:30 天竜川と海岸の勉強会
- 15:00 中田島砂丘スキー体験
- 16:00 アカウミガメ放流の説明
- 17:00 アカウミガメの赤ちゃん放流
- 18:00 遠州灘出発
- 19:00 途中SAで夕食（各自）
- 19:30 松川・駒ヶ根 随時解散
- 20:30 岡谷解散



アカウミガメ放流ツアーの案内チラシ

【天竜川の勉強会の内容】

時間：13：30～15：00

場所：中田島砂丘 訪問者広場

内容：《第1部》海天天竜川の成立ちと海岸の現状

司会：NPO 法人天竜川ゆめ会議 逆井理事

- あいさつと、上流部での取組みの説明 福澤会長 5分
- あいさつと、下流部での取組みの説明 鈴木会長 5分
- 【天竜川と伊那谷のなりたち】国土交通省浜松河川国道事務所より
 - 伊那谷の山を削って流されてきた土砂が作った遠州灘の説明。
20分程度の説明、質疑応答

その後、2班に分かれて

- 【中田島砂浜の今昔物語】 海岸侵食災害より住民を守る会より
 - パネル写真を見ながら、昔の砂丘と今の砂丘の比較。
 - なぜ、こうなってしまったのかの検証。
20分程度の説明、質疑応答
- 【中田島砂丘の植物達】 海岸侵食災害より住民を守る会より
 - 冊子を見ながら、海岸の珍しい植物の生態を勉強。
20分程度の説明、質疑応答
- 【中田島砂丘の松枯れの実情】 海岸侵食災害より住民を守る会より
 - 上伊那地域にも広がりを見せる松食い虫の実態と、海岸での深刻な問題を勉強。
20分程度の説明、質疑応答

《第3部》海岸で上流の砂を散布 砂浜へ移動して30分程度。

- 上流より土嚢袋に入れて持ってきた“上流の砂”を参加者みんなで遠州海岸に撒く。(ゆめ会議、伊那小、高遠小でそれぞれ用意)

中田島砂丘スキー体験

時間：15：00～16：00

内容：遠州灘の子供達が昔から遊んだ砂スキーの体験。

指導：海岸侵食災害より住民を守る会 鈴木さん

アカウミガメの赤ちゃん放流

◆ウミガメフェスティバルの視察。説明。

時間：16：00～18：00

内容：【サンクチュアリジャパン】

場所：ウミガメ孵化場横

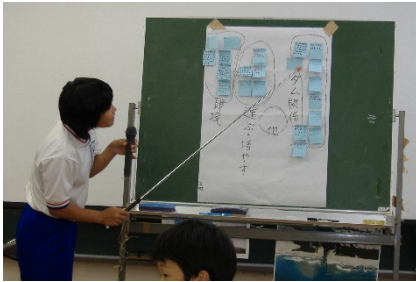
- ウミガメ保護までの経緯
- 放流会



バスの中でのカルトクイズ



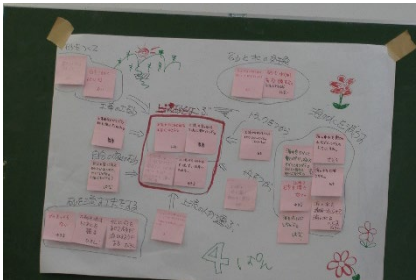
勉強会



発表の様子



発表の様子



ワークショップの記録



砂丘への移動



アカウミガメの赤ちゃん



アカウミガメの赤ちゃん



アカウミガメの赤ちゃん



放流の様子



元気に帰ってきてね



砂崖の体験

【参加者の感想】

<参加してよかった>

アカウミガメのほう流をして、子ガメが海に向かっていくしゅん間が一步一步ふんばっていておうえんしたくなりました。カメは、ゴミなどを食べてしまうので、ポイすてはよくないと思ったので、せっきよ的にゴミを見つけてすてたいです。子ガメは、20年後大きくなってもどって来てほしいです。

岡谷市湊小学校 3年生

<「何か」を感じてくれた>

災害から守るためのダム。ダムによる環境への影響。私たちは日々生活する中で、何をしていけばよいのかすぐ答えが出ず・・・大きな課題です。

カメが海へ向かう姿を見送り、我が子の旅立ちのように感じ、いとおしく思いました。貴重な体験をさせていただきとてもよかったです。娘が環境について、命について感想を書いていました。ほんの数分のカメとの関わりの中で「何か」を感じてくれた事に意味が残りました。

ありがとうございました。

保護者 岡谷市在住

<今日感じたこと>

アカウミガメの放流から沢山のことが学べた。ウミガメが産卵する場所を作る砂の話は、子供達には少しむずかしかった様だったけど、小さな命に触れて、「ゴミを捨ててはダメなんだよ！」と子供が言ってくれた事はこの会に出席して本当に良かったと思う。海のゴミを拾って帰る子供になってほしいと思った。海にウミガメの赤ちゃんが向いて行くのを見て、本当にかわいく、元気に大きくなったらまた日本の海に戻ってほしいです。

保護者 岡谷市在住

<すべてにとって良い環境を>

アカウミガメの放流は、普段ではできない事なので、とても楽しみでした。実際の子ガメは思ったより小さく、かわいかったです。小さいだけに、人の足跡程度の砂の高さに苦労して海に向かう姿が印象的でした。また、海岸には思ったよりゴミが多く落ちていて、驚きました。人間が捨てたゴミや、足あとなどの人によってできてしまった悪い環境が、カメなどの動物達に影響を与えていることは

残念だと思います。人間にとってだけの、よい環境だけを目指すのではなく、すべてにとってのよい環境を考えていければいいなと思いました。ダムにたまった砂も海岸に持っていければいいなと思いました。とても楽しい1日でした。

保護者 岡谷市在住

<命の大きさ大切さ感じた>

はじめに、遠州灘の海岸の現在の様子について聞いて、佐久間ダムによって砂が止められ、砂浜へ砂が流れて来なくて砂はまが小さくなってきている。という話をきいて、私たちには関係ないと思っていましたが、ダムで止まっている。と聞いてびっくりしました。

カメの放流をしてみて…、小さなカメが手の中でいっしょうけんめい進もうとしているところに命の大きさ、大切さを感じました。なかなか体験できないことをできてとてもいい思い出になりました。これからは砂はまがよくなっていくようにできるだけのことをしたいと思いました。とても楽しかったです。

岡谷田中小学校 6年生

<私たちの責任は重大>

TVなどで見たことはありましたが実際に子ガメに触れて、その生命力に驚くと共に、人間がやるべきことはとても沢山あるのだなと感じました。ゴミ問題やダムなど、山に住むものとして責任をもって考えていかなければならないこと、各地で協力していく必要があることが解りました。子供ともこれから考えていく、話し合ってみる機会が作れたら良いと思います。20年後どのような環境になっているか、私達の責任は重大です。今日はとても良い機会を与えていただき、ありがとうございました。

保護者 岡谷市在住

<自分にできることから>

今回参加するまでは天竜川河口の砂浜減少などについて考えた事はありませんでした。今回のツアーで上流に住んでいる自分達で考える事が沢山ある事に気がつきました。海ガメの赤ちゃんはとても力づよく、そしてかわいかったです。20年後に同じ砂丘へかえって来られるといいと思った。その時にちゃんと砂浜があつて、ゴミがないように人間がきちんとしておく必要を感じました。自分が出

来る事は少ないけれど、現状を知り、考えていく事をつづけたいと思いました。
ありがとうございました。 保護者 駒ヶ根市在住

<触れて学んだ環境問題>

今年初めて参加しました。アカウミガメの生態を通して、天竜川流域の環境問題について学ぶことが出来ました。子供（小学校4年生）には難しいところもありましたが、「砂浜は何故なくなっちゃうの？」など、いろいろ質問してきました。子供なりに理解して問題解決の糸口をさぐっているようでした。本等で読むより、実際にアカウミガメの赤ちゃんに触れて、環境問題を学んだことは、とても良い経験になったようです。ありがとうございました。 保護者 伊那市在住

<普段の行動を考え直す機会>

以前、砂浜が段々少なくなっているという話を聞いたことがありました。しかし、この天竜川の河口でも浸食がすすんでいるとは思いませんでした。その砂浜の浸食のために、ウミガメの産卵の場所が制限され、人の手の保護なしでは、孵化が難しくなっていることに改めておどろかされました。テレビで放映されたことがあり、どこか遠くのこのように感じていたことに反省する思いです。子供と散歩した時にゴミを見つけて拾うことがあっても、忙しいときなどは、ゴミがあるとわかっていっつも、通り過ぎてしまうことがあり、それが今日話を聞いたカメが食べてしまうことを考えると、考え直さなければいけないと思いました。今日放流したカメが、ゴミを食べることなく、元気に海を旅し、遠州灘に帰って来られる事を、また、帰る浜があることを祈りたいと思います。

保護者 箕輪町在住

<川と海はつながっている>

私は、今日の「アカウミガメ放流ツアー」での子ガメの放流のとき、初めてカメを触りました。そして、そのカメを放す前にポリ袋を食べて死んでしまうという話を聞きました。私が放した子ガメが、たった1つのポリ袋によって死んでしまうのは、とても悲しいと思いました。そのポリ袋は、川から流れてきます。川の上の方に住んでいる私達も、1つでもポリ袋をすてないように、そして、あつ

たら拾うようにしたいです。そして、改めて川と海がつながっていることを感じました。私が放した子ガメが、無事20年後も生き続けていますように。

箕輪中部小学校 6年

<親子で環境を考える機会>

以前、ウミガメのお腹（胃）の中から人間が出したゴミが大量に出てきた。という話を聞きました。実際に見てみると本当に自然界にはありえないものばかりで、ショックを受けました。そのことが今回のツアーへの参加のきっかけとなったと思います。地球上の生物にはすべて関わりを持ち、つながっている。その大きなことがらを小さなウミガメの赤ちゃんの生命から子供達に感じてほしいと思いました。天竜川を河口に向かって下り、海へつながるところを確認できたことは、とても意味のあることだったと思います。上流から流れた岩石が砂となって砂丘がつくられるという流れを感じる事ができました。遠州灘の海岸の浸食の原因は、ダムによる土石のせき止めなど、やはり人間の手が加わったことも一つとして挙げられるそうです。また逆に洪水のときなどは、上流から流れてきた生活ゴミが海へ流れ込む、あるいは河口にたまるという現状があるようです。かわいらしいウミガメの赤ちゃんを手にして、命を感じ、力強く海へ向かう姿に心から声援を送ることで、地球に住む物として、自分達にできること、しなければならぬこと、それらを「考え」「話し合う」子供達になっていくのではないかと思います。バスの中でも楽しませていただき、ありがとうございました。親子で環境を考える機会はとても大切だと思います。今後もこの企画がつながっていくようお願いしております。

保護者 駒ヶ根市在住

「私の大好きな水辺の風景写真コンテスト」表彰式開催状況

年	月	実施場所	年	月	実施場所
2011	平成23年	5月 駒ヶ根市文化会館	2019	令和元年	10月 宮田村村民会館
2012	平成24年	5月 駒ヶ根市文化会館	2020	令和2年	11月 駒ヶ根駅前アルパ
2013	平成25年	8月 飯島町文化館	2021	令和3年	11月 宮田村村民会館
2014	平成26年	10月 飯島町文化館	2022	令和4年	11月 宮田村村民会館
2015	平成27年	10月 伊那市・駒ヶ根市・飯島町・中川村・宮田村にて巡回展示	2023	令和5年	12月 駒ヶ根駅前アルパ
2017	平成29年	10月 駒ヶ根駅前アルパ	2024	令和6年	11月 駒ヶ根駅前アルパ
2018	平成30年	10月 駒ヶ根駅前アルパ	2025	令和7年	11月 駒ヶ根市赤穂公民館

【賞】

☆グランプリ：1点

☆準グランプリ：3点以内

○入選：5点以内

○佳作：5点以内



R7 写真コンテスト 表彰式

【グランプリ受賞写真】



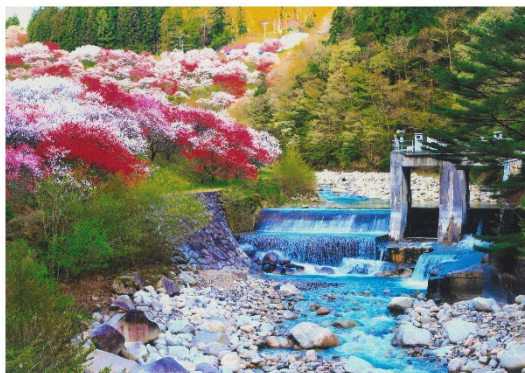
R4年 グランプリ

画題：あずみの湧水群

撮影場所：安曇野市

撮影者：菰田 俊夫

【グランプリ受賞写真】



R5年 グランプリ

画題：花桃咲く本谷川

撮影場所：

阿智村園原本谷堰堤にて

撮影者：串原 幸延

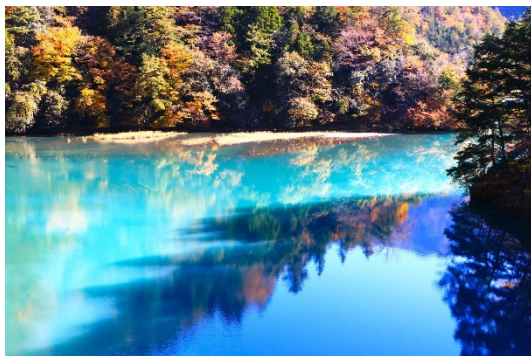


R6年 グランプリ

画題：復興を願い

撮影場所：天竜川時又港

撮影者：熊崎 元子



R7年 グランプリ

画題：平岡ダム青色に染まる

撮影場所：

天龍村平岡ダムにて

撮影者：串原 幸延

11. その他の活動

■ 忘れまじ三六災害

2011（平成23）年は、伊那谷に未曾有の大災害をもたらした1961（昭和36）年6月梅雨前線豪雨から50年の節目にあたりました。これを契機として、災害実態を検証し災害経験者の体験談等から地域住民への災害の記憶の伝承、防災のあり方などを議論し情報を共有することを目的として当該イベントを実施しました。

三六災害50年

～忘れまじ三六災害～ 天竜川ゆめ会議発足10周年プレイベント

【日時・会場】

日時：2011（平成23）年5月21日（土）

場所：駒ヶ根市文化会館

伊那谷に未曾有の大災害をもたらした昭和36年6月梅雨前線豪雨「三六災害」から50年。伊那谷は苦難を乗り越えこの災害から見事に復興を遂げました。このシンポジウムは、これを契機に災害実態を再検証し、災害経験者の体験談等から地域住民への災害の記憶の伝承、「自助・共助・公助」による防災のあり方などを議論し、情報を共有することを目的として企画しました。
是非、ご参加下さい。

シンポジウム “忘れまじ三六災害”

平成23年5月21日(土)
13:00～17:00
駒ヶ根市文化会館 **入場無料**

日時 場所
主催 共催
後援
お問い合わせ

- 主催：特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議／忘れまじ三六災害実行委員会
- 共催：駒ヶ根市／天竜川上流川原事務所／天竜川ダム総合管理事務所
／三埴川総合開発工事事務所／長野県／（社）中部建設協会
／（株）長野建設産業協会／（株）長野県測量設計士協会
／（株）建設コンサルタント協会長野支部／長野県建設教育会
- 後援：上伊那郡飯島町／飯島村／中川村／日本地すべり学会中部支部
／（一社）南信防災情報協議会／信濃毎日新聞社／中日新聞社
／長野日報社／市民新聞グループ／南信州新聞社／信州日報
／伊那ケーブルテレビジョン／信エコーンティニー駒ヶ谷
／エルシーブイ／信濃田ケーブルテレビ／飯田エフエム放送局

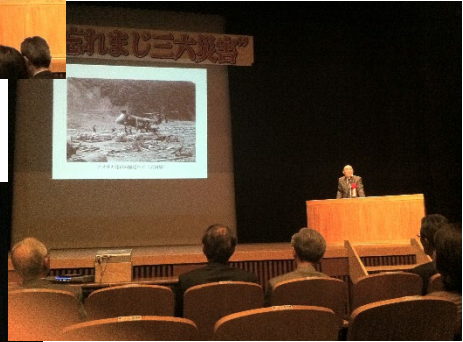
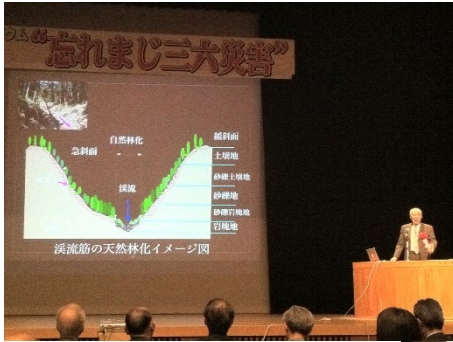
特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議 事務局
長野県駒ヶ根市赤穂14616-67 飯沼地社 5 内 福澤 倉田
Tel 0265-83-7744 Fax 0265-83-7745

シンポジウムの案内チラシ

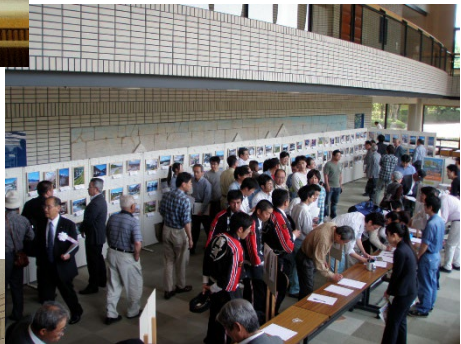
【プログラム概要】

◇地域の防災力向上をめざして

- 13:00 開会・趣旨説明 天竜川ゆめ会議 副代表理事 吉川 篤
- 13:10 あいさつ 駒ヶ根市長 杉本 幸治
- 13:10 基調講演 「生田中学校の様子」 北澤 秋司 (信州大学名誉教授)
- 13:50 体験発表 ～その時、人々は？～
- ①「長谷村の様子」中山 昌計
(前長谷村副村長 伊那市長谷支所長 伊那市長谷在住)
 - ②「四徳の記憶」小松 谷雄
(長野県退職校長会副会長・四徳人会 駒ヶ根市赤穂在住)
 - ③「大鹿村の被害」中川 豊 (前大鹿村長 大鹿村大河原在住)
- 14:35 天竜川流域の仲間達のフォーラム～災害に対する、それぞれの取り組み～
- ①駒ヶ根市
 - ②長野県建設部
 - ③天竜川ダム統合管理事務所 バイパストンネル
 - ④天竜川上流河川事務所 36 災イベント紹介
 - ⑤NPO法人天竜川ゆめ会議
- 15:05 <休 憩 15 分>
- 15:20 「天竜川を語る会」パネルディスカッション
～未曾有の災害から復活した伊那谷～
- ・コーディネーター：福澤 浩 (NPO法人天竜川ゆめ会議 代表理事)
 - ・パネリスト：草野 慎一 (国土交通省 天竜川上流河川事務所 所長)
細川 容宏 (長野県建設部砂防課 課長補佐)
滝沢 稔 (駒ヶ根市消防団 団長)
馬場 浩之 (川岸商会(株) 代表取締役社長)
- ①災害から学ぶこと
 - ②記憶を風化させないためには (災害経験の伝承)
 - ③防災に対する住民の意識 (自助・共助の意識)
 - ④社会変化による災害の変化 (人口推移、要援護者の推移、過疎化、中山間の孤立)
 - ⑤災害発生時の対応 (行政と住民・民間企業の連携の方法)
 - ⑥みらいへの警鐘 (気候変動、頻発する集中豪雨)
- 16:30 フォトコンテスト表彰式～わたしの大好きな水辺の風景写真コンテスト～
- 16:50 閉会の挨拶とお礼 天竜川ゆめ会議 代表理事 福澤 浩
- 17:00 閉会



シンポジウムの様子



■ 天竜川ゆめ会議 設立 10 周年記念フォーラム

2000（平成 12）年に結成された「天竜川ゆめ会議」は、『天竜川みらい計画』の実現を目指して、2002（平成 14）年 7 月から「市民団体天竜川ゆめ会議」に、2006（平成 18）年 7 月には長野県から特定非営利活動法人に認証され、さらに活発な活動を展開してきました。

天竜川ゆめ会議活動の 10 年を振り返り、“住民と行政の協働による川づくり”の検証、『天竜川みらい計画』の実現に向けて、今後取り組むべき事柄についての議論、さらに、先進事例を参考に今後 10 年を見据えた「治水」「利水」「環境」「住民の意識」のあり方について、それぞれの立場の方々が情報を共有することを目的としてフォーラムを実施しました。

天竜川ゆめ会議 設立 10 周年記念フォーラム

天竜川を自信と誇りを持って次世代に引き継ぐために

【日時・会場】

日 時：2012（平成 24）年 5 月 12 日（土）

場 所：駒ヶ根市総合文化センター

【プログラム概要】 ※敬称略

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------------|-------------------|
| 13:00 | 開会・趣旨説明 | 吉川 篤 | （NPO 法人天竜川ゆめ会議） |
| 13:10 | 共催者代表あいさつ | 駒ヶ根市長 杉本 幸治 | |
| 13:20 | 基調講演 想定を超える災害に対する多自然川づくり | 足立 敏之 | （国土交通省中部地方整備局） |
| 13:50 | 事例報告 ～“いい川”先進地からの報告～ | | |
| | ①「全国の住民の取り組み」 | 山道 省三 | （NPO 法人 全国水環境交流会） |
| | ②「東北の川づくり」 | 高橋 万里子 | （NPO 法人 水環境ネット東北） |
| | ③「多自然川づくりの普及」 | 岩崎 福久 | （岐阜県県土整備部 河川課） |
| 14:50 | 天竜川ゆめ会議の報告 ～設立から 10 年、活動の軌跡～ | 橋爪 和也 | （NPO 法人天竜川ゆめ会議） |
| 15:00 | <休 憩 15 分> | ゆめ会議 10 年の軌跡 | DVD 上映 |

15:20 パネルディスカッション ～河川環境と地域防災の両立～

- ・コーディネーター 福澤 浩 (NPO 法人天竜川ゆめ会議)
- ・パネリスト 小池 剛

(国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)

北村 勉 (長野県建設部)

高橋 万里子 (NPO 法人 水環境ネット東北)

滝沢 稔 (駒ヶ根市消防団)

16:30 フォトコンテスト表彰式

～わたしの大好きな水辺の風景写真コンテスト～

16:50 総評 天竜川上流河川事務所 蒲原 潤一

17:00 閉会

NPO法人天竜川ゆめ会議設立10周年記念フォーラム

私達の宝物
“天竜川”
を自信と誇りを持って
次世代に引き継ぐために

入場無料

平成24年
5/12

場所：駒ヶ根市総合文化センター
時間：午後 1:00～

主催：特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議

〒389-4117 駒ヶ根市赤穂14616-67
TEL 0263-83-7744 FAX 0263-82-7742 E-mail jmyukyo@city.toyohiko.jp

天竜川ゆめ会議設立10周年記念フォーラム
～天竜川を自信と誇りを持って次世代に引き継ぐために～

【プログラム概要】一部予定、随時編

12:00～ 開場、受付
13:00 開会 両会長の挨拶・報告挨拶 NPO法人天竜川ゆめ会議 副代表理事 吉川 篤
13:10 特別講演 「防災と多自然づくり」 国土交通省河川部河川課長 岸本 孝治
13:20 基調講演 「防災と多自然づくり」 国土交通省河川部河川課長 岸本 孝治

13:30 “いい川”先達地からの報告
報告① テーマ「全県的な治水の取り組み」 NPO法人全国水環境交流協会 山邊 真三
報告② テーマ「東北の川」 NPO法人水環境ネット東北 高橋万里子
報告③ テーマ「多自然づくりの普及」 岐阜県立土佐総合大学 河川課 岩倉 隆久
天竜川ゆめ会議からの報告
テーマ「陸立から10年、活動の軌跡」 NPO法人天竜川ゆめ会議 副代表理事 橋本利和

15:10 <休憩 10分>
15:20 全体総論 テーマ「天竜川を自信と誇りをもって次世代に引き継ぐために～」
パネリスト 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 小池 剛
長野県建設部 北村 勉
駒ヶ根市消防団 滝沢 稔

コーディネーター 水環境ネット東北 高橋万里子
NPO法人天竜川ゆめ会議 代表理事 福澤 浩
テーマ① 河川防災意識と地域防災の確立、生物多様性に向けて
テーマ② 防災と生態系をどう結びつけるか
テーマ③ 天竜川上流河川事務所 蒲原 潤一

16:30 フォトコンテスト表彰式
～わたしの大好きな水辺の風景写真コンテスト～

16:50 閉会の辞 NPO法人天竜川ゆめ会議 代表理事 福澤 浩
17:00 閉会
閉会挨拶、別会場で懇談会を計画中です(18:00～20:00を予定)、事前に事務局までお申し込みください。

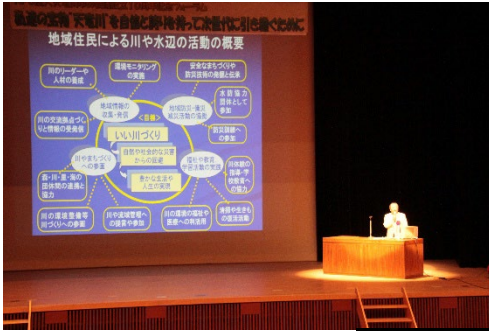
【主催：共催：後援】
【主催】特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議
【共催】駒ヶ根市/河川緑地管理委員会/天竜川上流河川事務所/天竜川ダム総合管理事務所
【後援】河川防災推進事務局/長野県/河川/国土交通省河川環境課/NPO法人/水環境ネット東北
長野県水環境推進協議会/（一社）長野県建設協会/（一社）長野県河川環境協議会
【協賛】環境省/環境省環境政策推進委員会/環境省/国土交通省/国土交通省河川部河川課
【協賛】河川防災推進協議会/河川/国土交通省河川部河川課/河川/国土交通省河川部河川課
【協賛】河川防災推進協議会/河川/国土交通省河川部河川課/河川/国土交通省河川部河川課
【協賛】河川防災推進協議会/河川/国土交通省河川部河川課/河川/国土交通省河川部河川課
【協賛】河川防災推進協議会/河川/国土交通省河川部河川課/河川/国土交通省河川部河川課

----- CPD・CPDS申し込み券 -----

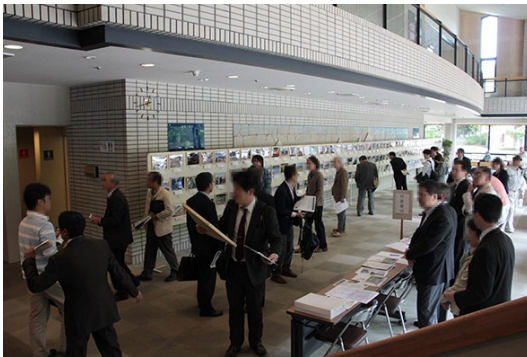
お名前 姓(姓)フリガナ	
フリガナ	
〒	
住所 〒(郵便番号) 姓(姓)フリガナ	
TEL	
FAX	
お申し込み 郵便番号	郵便番号
TEL	TEL
FAX	FAX
名	名
姓	姓

【申込先】 NPO法人天竜川ゆめ会議事務局 FAX 0263-83-7745 E-mail: jmyukyo_tenet@yahoo.co.jp

フォーラムの案内チラシ



フォーラムの様子



12. おわりに

2009（平成21）年7月に「天竜川河川整備計画」は策定されました。

策定された「天竜川河川整備計画」には、

- 住民との協働による河川環境保全（住民の意識）
- 河川環境の整備と保全（環境）
- 河川の適切な利用及び流水の正常な機能維持（利水）
- 災害の発生の防止または軽減（治水）

の4項目が流域住民の意見として加えられました。



河川整備計画策定最終意見聴取風景

主目的である「天竜川河川整備計画」に『天竜川みらい計画』の思想を加えることと、その実現を目的に活動してきた特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議は、河川整備計画策定と同時に解散するべきとの意見も出されました。しかし、私ども天竜川ゆめ会議の企画する様々な企画に参加してくれた子供たちや青年たちが「川」

の存在を肌で感じ、大自然そのものである「川」を愛し慈しむ心を醸成してくれているとしたら活動は継続すべきであると結論しました。そして、令和6年に変更された「天竜川河川整備計画」の見直しにもかかわることができました。

有識者をお招きして河川景観の保全と地域防災力の向上を目指したシンポジウム等を不定期に開催しています。その他、河川施設整備にあたるハード面の技術力向上のために、行政担当者、地元建設コンサルタントの設計担当者や地元建設業者の施工担当者を対象とした「いい川づくり技術研修会」も機会を見つけて開催しています。

河川法改正から20年が経過した2017（平成29）年からは「天竜川シンポジウム」を定例行事として実施することにしました。毎年その時々の問題点をテーマ

に話題提供や講演を行ったうえで、その話題を深める形で議論する形式をとっています。

2025（令和7）年度は、河川管理を行う国土交通省や長野県の担当者だけでなく、山林、農地、農業、漁業、研究者、消防団など幅広い分野から代表者が集まり多角的な視点で治水を考える議論を展開しました。ダムや護岸工事に加え新たな視点を盛り込みながら流域全体で災害に強い川づくりや地域づくりを考えました。

パネルディスカッションでは、国土交通省天竜川上流河川事務所、長野県建設部、林野庁南信森林管理署、駒ヶ根土地改良区、天竜川漁業協同組合、信州大学、駒ヶ根市消防団の関係者がそれぞれの立場で議論を展開しました。市街地から河川に流入する雨水の抑制に、屋根などに降った

雨を水路に直接流さずに植栽空間などに一時的に貯留する方法や、地下浸透させる「雨庭」などを利用する方法も紹介されました。また、土地改良区からは大雨の際に一時的に水田に雨水を貯留する「田んぼダム」の実証実験の結果も報告がありました。全国では導入に必要な器具の購入費や整備費用の一部を家庭や農家に補助する制度を設けた自治体もあることが紹介され、天竜川流域の自治体の理解促進と制度の導入に期待を寄せる見解もありました。

各地の市民団体やNPOの皆さんも高齢化や運営資金獲得問題など、同様な悩みを抱えて活動を展開されているとは思いますが、私たちは自分たちの行動規範『天竜川みらい計画』の実現のためにさらに地域と深いかわり保ちながら活動を続けます。

“ゆめと誇りを持って天竜川を次世代に引き継ぐために”



R7 天竜川シンポジウムの様子

参考文献

- ・北原秋司「天竜川上流域の立地と災害」中部地方建設局天竜川上流工事事務所 1986
- ・日下部新一「天龍川の水運」中部地方建設局天竜川上流工事事務所 1991
- ・浅井康宏「緑の侵入者たち―帰化植物のはなし」朝日選書 1993
- ・村瀬典章「天竜川水運と樽木」中部地方建設局天竜川上流工事事務所 1993
- ・鷲谷いづみ「外来植物ハンドブック」日本生態学会 2002
- ・鷲谷いづみ「千曲川・犀川のアレチウリ」北陸地方整備局千曲川河川事務所 2003
- ・小渋ダム水源地協議会「幸せの交流舞台～小渋ダム水源地ビジョン～」
天竜川ダム統合管理事務所 2005
- ・上伊那教育会郷土館部専門委員会編「上伊那川たんけんブック」
天竜川上流河川事務所 2006
- ・天竜川サイエンス編集委員会編「天竜川サイエンス」
天竜川上流河川事務所 2006
- ・土田勝義・横内文人「しなの帰化植物図鑑」信濃毎日新聞社 2007
- ・下伊那川たんけんブック編集委員会編「下伊那川たんけんブック」
天竜川上流河川事務所 2007
- ・天竜川水系の流域及び河川の概要 国土交通省 水管理・国土保全局 2023

活動年表

「天竜川ゆめ会議」の活動について、本編で紹介した取り組み以外の活動を掲載します。継続した取り組みの中で、「手づくり郷土賞」や「天竜川美化・愛護推進感謝状」「河川功労者表彰」なども受賞しました。

活動年表 (1/2)

年	月	内容
2000	平成12年 8月	「天竜川の夢・みらいをつくりませんか？」メンバー公募開始
	9月	第1回天竜川ゆめ会議開催
2001	平成13年 2月	第5回天竜川ゆめ会議開催 「環境・治水・利用のテーマ抽出完了」
	6月	第8回天竜川ゆめ会議開催 「天竜川と支川のみらい像の検討終了」
	12月	第11回天竜川ゆめ会議開催 「ゾーン別の方針案の検討終了」
2002	平成14年 3月	第12回天竜川ゆめ会議開催 天竜川ゆめ会議会員解任
	7月	有志が市民団体として「市民団体天竜川ゆめ会議」設立総会 於：飯島町文化館
2003	平成15年 2月	「天竜川ゆめ会議のその後の座談会」開催 於：飯島町文化館
	9月	天竜川 ヤナ・プロジェクト始動 於：中川村
2004	平成16年 3月	今昔写真・随想録「天竜川あの頃この頃」完成
2005	平成17年 2月	臨時総会開催 於：飯島町文化館 出席者40名
	5月	設立総会開催 於：飯田市公民館 出席者32名
	11月	「天竜川の河畔を考える会」開催 於：下平区一心館 参加者32名 ～その時代に生きた住民の考える河川景観～
2006	平成18年 2月	「天竜川の河畔を考える会」開催 於：下平区一心館 参加者40名 ～本当の天竜川の環境を取り戻すために何をすべきか？～
	7月	「特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議」設立 (平成18年7月25日)
2007	平成19年 12月	駒ヶ根市長より「水防協力団体」として指定
2008	平成20年 6月	「天竜川流域河川整備計画策定提言会」開催 於：駒ヶ根市赤穂公民館 ～策定作業最終段階・最後の調整～
2013	平成25年 1月	「信州“いり川”づくり研修会」開催 参加者109名 ～多自然川づくりその技術と推進の仕組み～ 於：飯島町文化館
	8月	「日本の源流シンポジウム」開催 於：飯島町文化館 参加者260名 ～河川環境保全と地域防災力向上の両立～
2014	平成26年 1月	国土交通大臣より「手づくり郷土賞」受賞
	3月	中部地方整備局長より「河川協力団体」として指定

活動年表 (2/2)

年	月	内容
2015	平成27年 8月	「中部のいゝ川づくりワークショップ」開催 参加者 85 名 於：駒ヶ根市文化会館 ～“いゝ川づくり”と河川協力団体の運用推進に向けて～
2017	平成29年 7月	天竜川上流河川事務所長より河川美化・愛護の感謝状を受領
2018	平成30年 10月	「ミズベリング中川」開催 於：中川村ヤナ場 ～飲みながら天竜川のみらいを語ろう！～
2019	令和元年 6月	「岡谷市南部中学生を支える会」でアレチウリの生態説明 於：岡谷市南部中学校
	7月	海と日本プロジェクト「天竜川調査隊」実施 水生生物・漂着ゴミ 調査
	8月	海と日本プロジェクト「天竜川調査隊」実施 森の学習・小渋ダム 調査
	9月	海と日本プロジェクト「天竜川調査隊」実施 アカウミガメ放流・ 海の備え学習
2020	令和2年 7月	中部地方整備局長より河川美化・愛護の感謝状を受領
2022	令和4年 11月	「中部のいゝ川ワークショップ in 天竜川」共同開催 参加者 200 名 於：宮田村村民会館
2024	令和6年 6月	日本河川協会より「河川功労者表彰」受賞（人材育成、河川環境美 化に貢献）
2025	令和7年 7月	「第44回諏訪湖クリーン祭」にブース出展 天竜川「お試し試験」開催 於：諏訪自動車会館

特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議 役員名簿

- 代表理事 福澤 浩
- 理事 飯澤 将武
- 理事 橋爪 和也
- 理事 吉川 篤
- 理事 倉田 正清
- 理事 片桐 孝
- 理事 沖村 隆
- 理事 氣賀澤 葉子
- 理事 矢澤 聖一
- 監事 鈴木 豊
- 監事 加藤 博

2025（令和7）年12月現在

福澤 浩 (ふくざわ ひろし) 特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議 代表理事

1960 (昭和 35) 年長野県駒ヶ根市東伊那生まれ。天竜川を見下ろす河岸段丘の羽淵で育ち、子どもの頃は祖父に背負われて天竜川の中洲にあった畑によく通う。小学校時代は、帰宅するとランドセルを玄関に放り投げ、風呂を焚きつけ釣竿を担いで天竜川へ。中学時代は足で高校時代は単車で、天竜川の堤防を走り回る生活を送る。アユとザザムシの栄養でこんなに大きくなったと感じている。

2000 (平成 12) 年より天竜川ゆめ会議に参加。現在、特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議 代表理事。

語りつぐ天竜川シリーズ第 6 7 巻

天竜川ゆめ会議 20 年のあゆみ

～ゆめと誇りをもって天竜川を次世代に引き継ぐために～

令和 8 年 3 月発行 第 1 刷発行

企画・発行：国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南 7 番 10 号

TEL 0265-81-6411 FAX 0265-81-6419

著者：福澤 浩

編集：国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

株式会社 環境アセスメントセンター

印刷：株式会社 宮澤印刷

「語りつぐ天竜川」の発刊にあたって

南アルプス、中央アルプスの高峰にはさまれて、伊那谷を北から南へ貫流する天竜川。その流域では、あり余るほどの自然の恩恵に浴して、人々は豊かな暮らしを育んでいます。しかし、名にし負う“暴れ天竜”は、ひとたび豪雨が見舞えば、日々の穏やかな表情を一変し、猛々しい牙をむき、人々の暮らしを脅かしてきました。天竜川上流河川事務所では、天竜川が“母なる川”として優しい微笑をたたえ続けて欲しいと願う人々の切なる気持ちに応えるため、半世紀にわたり、地域の人々の多大なご協力のもと、自然の脅威と闘いながら河川改修事業や砂防事業に取り組んできました。しかし、まだまだ危険な箇所は多く残されており、絶えず流域の変貌をみつめ、河川管理施設・砂防施設の整備と維持を図っていかねばなりません。

平成9年の河川法改正で「治水」「利水」に加え「河川環境の整備と保全」が追加され、河川整備計画の策定に地域の意見を反映する仕組みが導入されてから20数年が経過しました。この間に天竜川では地域の方々のご意見を踏まえ、平成21年に天竜川水系河川整備計画を策定しました。また、令和6年には、近年の気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ「流域治水」を反映させた河川整備計画に変更しました。流域治水とは、集水域から氾濫域にわたる流域に関わる関係者全員で水災害対策を行うという考え方です。

「語りつぐ天竜川」シリーズは、天竜川に関する地域の知見や経験を収集し、広く地域共有の知識とすることにより、地域の皆さんと共によりよい天竜川を築いていくために昭和61年度より発刊してきました。シリーズも67巻を超え好評を頂いておりますが、これも偏に天竜川を愛する地域の皆さん、その気持ちに答えようとお忙しい中ご協力いただいた執筆者の方々のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

天竜川上流河川事務所では、「安全・安心」「環境」「交流」という3つのテーマをもとに、川づくり、地域づくりにこれからも努めてまいります。また、流域治水の考え方のもと、今後一層流域の皆様それぞれのお立場で水災害へお取組いただくため、本刊がその一助となれば幸いです。皆さまのさらなるご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所
事務所長 吉田 桂治

「語りつぐ天竜川」目録

番号.	題名	著者
1.	伊那谷の気象	米山 啓一 著
2.	天竜川上流域の立地と災害	北澤 秋司 著
3.	天竜川に於ける河川計画の歩み	鈴木 徳行 著
4.	総合治水の思想	上條 宏之 著
5.	総合治水と森林と	中野 秀章 著
6.	伊久間地先に於ける天竜川の変遷	松澤 武 著
7.	天竜峡で見た天竜川水位の変遷	今村 真直 著
8.	村境は不思議だ	平沢 清人 著
9.	諏訪湖の富栄養化と生物群集の変遷	倉沢 秀夫 著
10.	諏訪湖の御神渡り	米山 啓一 著
11.	理兵衛堤防	下平 元護 著
12.	近世 天竜川の治水 ～ 伊那郡松島村 ～	市川 脩三 著
13.	川筋の変遷 ～ 天竜川と三峰川の場合 ～	唐沢 和雄 著
14.	伊那谷山岳部の降雨特性	宮崎 敏孝 著
15.	天竜川の橋	日下部 新一 著
16.	伊東伝兵衛と伝兵衛五井	北原 優美 編
17.	天竜川の魚や虫たち	橋爪 寿門 著
18.	天竜川のホタル	勝野 重美 著
19.	天竜川流域の村々	松澤 武 著
20.	小渋川水系に生きる ～ 人と水と土と木と ～	中村 寿人 著
21.	ものがたり 理兵衛堤防	森岡 忠一 著
22.	量地指南に見る 江戸時代中期の測量術	吉澤 孝和 著
23.	土木技術と生物工学 ～ 生きものを扱う技術 ～	亀山 章 著
24.	戦国時代の天竜川	笹本 正治 著
25.	天竜川の水運	日下部 新一 著
26.	惣兵衛川除	市村 咸人 著
27.	紙芝居開墾堤防 ～ 下伊那郡豊丘村伴野 ～	竹村浪の人 著
28.	昭和36年伊那谷大水害の気象	奥田 穰 著
29.	天竜川の淵伝説 ～ 『熊谷家伝記』を中心に ～	笹本 正治 著

番号.	題名	著者
30.	天竜川の源流地帯	赤羽 篤 著
31.	東天竜	三浦 孝美 仁科 英明 共著
32.	天竜河原の開発と石川除	塩沢 仁治 著
33.	伊那谷は生きている	松島 信幸 著
34.	天竜川の災害伝説	笹本 正治 著
35.	天竜川の災害年表	笹本 正治 編
36.	天竜川水運と樽木	村瀬 典章 著
37.	水辺の環境を守る	桜井 善雄 著
38.	諏訪湖 ～ 氾濫の社会史 ～	北原 優美 著
39.	河川工作物と魚類の生活	中村 一雄 著
40.	天竜川上流域の過疎問題	山口 通之 著
41.	資料が語る 天竜川大久保番所	松村 義也 著
42.	天竜川上流 河辺の植物と植生	関岡 裕明 著
43.	水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水	藤森 明 著
44.	横川山巡覧記 ～ 『辰野町資料第87号』より ～	辰野町教育委員会 赤羽 篤 校訂
45.	天龍川の鳥たち	福与 佐智子 著
46.	遠山川流域の民俗とふるさとイメージの創造	浮葉 正親 著
47.	田切ものがたり	赤羽 篤 著
48.	カエルと暮して	山内 祥子 著
49.	伊那の冬の風物詩 ざざ虫	牧田 豊 著
50.	みんなの三峰川を次世代に	三峰川みらい会議
51.	三峰川ものがたり	三峰川みらい会議 北原 優美 著
52.	天竜川水系の水質 ～ 「泳げる諏訪湖・水遊びのできる天竜川」を目指して～	沖野 外輝夫 著
53.	天竜川の帰化植物たち	木下 進 著
54.	中央構造線読み方案内 ～ 諏訪から大鹿村地藏峠まで ～	河本 和朗 著
55.	ふるさととの山 駒ヶ岳ものがたり	赤羽 篤 著
56.	近世信州伊那郡大河原村の自然環境と人間	松原 輝男 著

番号.	題名	著者
57.	地名を通して見る 天竜川と人々の暮らし	松崎 岩夫 著
58.	伊那谷の土砂動態	九津見 生哲 著
59.	天竜川と生きて	下平 長治 著
60.	明日に伝える三六災害 ～ 川路・龍江の水害体験談と子ども達の取り組み ～	川路・龍江の方々
61.	天竜川の川の碑	竹入 弘元 著
62.	「東日本大震災」の対応について ～ 初動対応～ 復旧・復興に向けて ～	熊谷 順子 著
63.	三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠	北原 富美子 著
64.	天竜川・三峰川河畔でのミヤマシジミ保全	岡村 裕 著
65.	三六災害の記録「濁流の子」の編纂を振り返って	碓田 栄一 著
66.	天竜川総合学習館かわらんべ地域と歩んだ20年 天竜川総合学習館かわらんべ編	
67.	天竜川ゆめ会議20年のあゆみ ～ ゆめと誇りをもって天竜川を次世代に引き継ぐために ～	特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議

※ご執筆いただいた方々には、自由な立場からお考えを披瀝していただいておりますので、国土交通省の見解とは異なる場合がありますことを付言させていただきます。